

平成 19 年 11 月 8 日
東京都板橋区小豆沢 3-6-10
オリエンタル酵母工業株式会社

オリエンタル酵母工業 第 122 期連結中間決算発表

平成 20 年 3 月期 連結中間決算

オリエンタル酵母工業株式会社の平成 20 年 3 月期連結中間決算の売上高は、過去最高を更新いたしました。

食品・バイオの両部門共に設備面や R & D 面で積極的な投資を行い、生産効率の向上と研究・開発体制の強化や新製品開発の促進を図ってまいりました。また研究・開発、製造、営業が一体となった拡販体制を推進すると共に、トータルローコスト策を進めてまいりました。

食品部門は、新製品を積極的に上市し拡販に結びつけたことにより、イースト関連やフラワーペースト・油脂加工品の売上高は前年同期を上回りましたが、マヨネーズ・総菜や商事商品は前年同期を下回りました。

バイオ部門は、6 月に機構改革を実施しバイオサイエンス部を新設すると共に、長浜生物科学研究所を事業所として研究・開発と製造を一体化することにより、新製品開発のスピードと生産効率のアップを図りました。これにより生化学・免疫製品の売上高は前年同期を上回りました。更に、バイオニュートリショナル製品（酵母エキス・組織培養用培地）や養魚用飼料、飼料受託事業は大手得意先を主体とした拡販により、売上高は前年同期を上回りました。

しかしながら、利益面ではエネルギーや穀物相場の高騰等に伴う原材料費の急激な上昇分を吸収できなかったことに加え、販管費等の増加といった要因も重なり収益が圧迫されました。

この結果、当中間期の連結業績は、売上高は主要製品の拡販並びにイーストや養魚用飼料の価格改定もあって 306 億 56 百万円（前年同期比 100.5%）と増収となりましたが、経常利益は 10 億 14 百万円（前年同期比 94.9%）、中間純利益は 5 億 70 百万円（前年同期比 97.4%）となりました。

平成 20 年 3 月期 今期連結業績予想

当社グループは引き続き営業体制の強化や製造・販売・管理にわたるコスト吸収策を推進するなどして既存事業の収益基盤を強化すると共に、新製品・新規事業等の収益寄与化を進めてまいります。

連結業績につきましては、穀物相場高騰等による原材料費の上昇が当初の予想を上回り価格改定やコストダウンでは吸収しきれないこと、及び実験動物関連や研究支援事業等のラボラトリーアニマルサイエンス事業の市場環境が厳しい状況にあることから、平成 19 年 5 月 10 日公表の通期業績予想を引き下げております。売上高は 618 億円（前期比 101.3%）と増収となるものの、利益面では経常利益は 24 億円（前期比 91.2%）、当期純利益は 13 億 30 百万円（前期比 71.6%）と減益となる見込みであります。

以上